

# 講義等の概要

平成21年度 秋学期 版



事業創造大学院大学

## 4. 人材マネジメント 【経営戦略・組織人事分野 基礎科目】

担当教員	専任・非常勤	開講時期	曜日・時間	単位数・コマ数
丸山 一芳	専任	秋学期・前後期	火曜・6限	2単位・15コマ
<p>&lt;授業の概要と目的&gt;</p> <p>「知識創造の源泉は人である」。このことを前提に本講義では、人事や組織変革に関する理論と企業における実態を学ぶことを目的とする。具体的には、人材マネジメント論を中心に組織行動論や組織文化論の概観を習得しつつ、人材の外部化、モチベーションなどのトピックを取り上げながら、企業人事における諸問題についてケース・スタディを用いながら実務経験をもとに多面的に検討していく。実際の実務現場・理論・事業計画がリンクするように、出席者全員でディスカッションして経営における「人」に関する課題と対策を浮き彫りにする。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション: 講義方針(概要・評価方法・教科書)説明とアンケート</li> <li>② 人材マネジメントの理論的変遷: 労務管理から戦略人材マネジメントへ</li> <li>③ ケース・ディスカッション: ベネッセコーポレーションもしくはリクルート</li> <li>④ 日本的雇用慣行と目標管理, 成果主義: モチベーション理論</li> <li>⑤ 競争優位の源泉としての人材</li> <li>⑥ ケース・ディスカッション: ヤマト運輸</li> <li>⑦ 企業文化と経営理念: ダイバーシティ・マネジメント, ワーク・ライフ・バランス</li> <li>⑧ 課題中間発表: 課題選択と問題意識</li> <li>⑨ 個人課題発表: 事業計画における人に関する発表</li> <li>⑩ ケース・ディスカッション: 松下電器産業もしくは小林製薬</li> <li>⑪ 人材開発とキャリア: OJT と企業内研修, サクセッション</li> <li>⑫ 人材ビジネス(人材派遣や転職支援, 人事コンサルティング)</li> <li>⑬ 人材ポートフォリオと知識創造</li> <li>⑭ ゲストスピーカーおよびグループ課題進捗報告</li> <li>⑮ グループ課題発表会</li> </ol>				
<p>&lt;授業の進め方&gt;</p> <p>講義の中で受講生とのインタラクションを重視し、随時討議をおこなう。講義・発表・ゲスト講演・ミニテスト・課題・グループワーク・ディベートを受講生の人数やプロフィールにあわせておこなう。</p>				
<p>&lt;講師紹介&gt;</p> <p>新潟大学～北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科博士前期課程修了 新潟市生まれ。大学卒業後、松下電器産業株式会社(現パナソニック株式会社)にて人事部門に勤務し任用や国際人事を担当。退職後、大学院にてナレッジ・マネジメント(知識経営論)や人材マネジメントの研究を開始。あわせて株式会社リクルート・ワークス研究所客員研究員を務めるなど民間企業との共同研究を積極的に行なっている。組織学会、経営行動科学学会、Academy of Management 会員。修士(知識科学)</p>				

## 25. ブランドコミュニケーション 【マーケティング分野 発展科目】

担当教員	専任・非常勤	開講時期	曜日・時間	単位数・コマ数
信田 和宏	専任	秋学期・前後期	火曜・5限	2単位・15コマ
<p>&lt;授業の概要と目的&gt;</p> <p>(概要)</p> <p>①なぜ「ブランド」が近年クローズアップされてきたかの背景とブランドの意味を考え  ②ブランド化する(ブランディング)ための戦略的作成手順を学ぶ  ③次に、成功している企業の実例に触れる  ④さらに特定の商品やサービスを取り上げてブランド戦略を作成する演習を行う(グループ作業)。</p> <p>(目的)</p> <p>企業の社会的責任が問われ、また、競争激化の今日に BtoB,BtoC に関らずブランド戦略が企業の生き残る必要条件であることを理解し、各自がその戦略立案法を習得することに主眼を置いている。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>① ブランドとは何か、ブランド体験とは、ブランド展開の事例</p> <p>② ブランドとコモディティの違い、ブランドが叫ばれた背景と歴史、B2B ビジネスと B2C ビジネスのブランド観</p> <p>③ ブランドの3つのカテゴリー</p> <p>④ ブランドの評価軸、ブランドを構成する要素</p> <p>⑤ パワーブランドとそのコアバリュー</p> <p>⑥ 自動車会社(トップ企業)のブランド戦略事例(外部講師)</p> <p>⑦ 企業ブランドと商品ブランドについて—ブランドの形成プロセス事例</p> <p>⑧ ブランド力を高めるブランド拡張</p> <p>⑨ 化粧品会社(トップ企業)に見るブランド拡張事例(外部講師)</p> <p>⑩ ブランド戦略とは—戦略策定の前提と作成法、基本メッセージとは</p> <p>⑪ ブランド作成作業(グループ作業)</p> <p>⑫ ブランド作成作業(グループ作業)</p> <p>⑬ 地域ブランド戦略とは。ブランドの評価について</p> <p>⑭ グループ作業のプレゼンテーション</p> <p>⑮ 試験</p>				
<p>&lt;授業の進め方&gt;</p>				
<p>&lt;講師紹介&gt;</p> <p>早稲田大学第一商学部 ～スタンフォード大学大学院ビジネススクール・スローンコース修了  (株)電通入社後、営業部長～(株)電通ヨーロッパ、(株)電通アジア社長などを歴任  東京経済大学大学院客員教授 国際広告ビジネスなどを担当。  マーケティング、広告、ブランド戦略などの幅広い知識と経験を有する。近年は、地域再生で広く活躍している。</p>				

## 28. 経営戦略とファイナンス 【会計・財務分野 発展科目】

担当教員	専任・非常勤	開講時期	曜日・時間	単位数・コマ数
松田 千恵子	非常勤	秋学期・前後期	金曜・5限	2単位・15コマ
<p>&lt;授業の概要と目的&gt;</p> <p>今日の経営環境においては、事業の意思決定はファイナンスを無視して行い得るものではなく、また財務的な意思決定には事業状況への深い洞察が益々必要とされるようになってきている。従って、経営戦略及びコーポレートファイナンス双方の理論を有機的に結びつけ、統合された知識に基づき、実践的な経営判断を行っていくことは、これからの経営者にとって必須の能力である。</p> <p>この授業では、かかる問題意識に基づき、企業経営や資本市場の動向などの具体的な動きと背景にある考え方の理解に主眼におき、実践的なコーポレートファイナンスの活用と、その経営戦略との関係性について習得することを目的とする。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 週目 企業を巡る環境変化－経営戦略とファイナンスの概要</li> <li>2 週目 コーポレートファイナンスの要諦(1)－企業に対する期待収益率とその実現</li> <li>3 週目 コーポレートファイナンスの要諦(2)－最適資本構成と信用リスク</li> <li>4 週目 投資と財務の意思決定</li> <li>5 週目 企業価値の評価と向上(1)－企業価値評価手法の実践</li> <li>6 週目 企業価値の評価と向上(2)－キャッシュフロー生成能力の向上</li> <li>7 週目 経営戦略の位置づけと戦略立案のプロセス</li> <li>8 週目 外部環境分析と市場進化の方向性</li> <li>9 週目 内部資源分析と競争優位性の確立</li> <li>10 週目 全社戦略とポートフォリオマネジメント</li> <li>11 週目 企業経営と資本市場(1)－買収・防衛・情報開示</li> <li>12 週目 企業経営と資本市場(2)－金融機関・社債と格付</li> <li>13 週目 ファイナンスとガバナンス</li> <li>14 週目 実践的適用としての M&amp;A 戦略</li> <li>15 週目 試験実施</li> </ol>				
<p>&lt;授業の進め方&gt;</p> <p>講義を約 60 分行なった後、関連した事例についてディスカッションを行なう。</p>				
<p>&lt;講師紹介&gt;</p> <p>ブーズ・アンドカンパニー株式会社 ヴァイス プレジデント マトリックス株式会社 代表取締役</p>				

## 36. 健康産業創造論 【アントレプレナーシップ分野 発展科目】

担当教員	専任・非常勤	開講時期	曜日・時間	単位数・コマ数
河合 雅樹	非常勤	秋学期・前後期	月曜・6限	2単位・15コマ
<p>&lt;授業の概要と目的&gt;</p> <p>2008 年末から起こった歴史的な景気後退は日本経済が輸出に依存し内需経済の拡大を怠ってきたことにも起因する。健康産業(健康・福祉・医療分野のイノベーション)は内需型経済の主要領域であり今後の成長が期待されているがイノベーションが遅れている。</p> <p>サービス、食品、農業、機械器機と産業の多岐にわたる健康産業では資源の見立てと能力あるビジネスプレーヤーが必要である。既存事業からの新規事業、新分野進出が相応しい領域でもある。</p> <p>新潟県は全国に先駆けて健康産業を産業政策の基本に据え「健康ビジネス連峰」を進めている。</p> <p>農業・食品産業が盛んであり、ものづくり、スキー場・山林や温泉資源が豊富で健康ビジネスの資源が揃っているからである。</p> <p>この授業では、進行中の健康ビジネス連峰の主管者である教員が事例を見せながら学生の事業創造のヒントを促す。アカデミズムとしてまだ成就していないこの領域において出来るだけ多くの具体事例を取り上げワーキング・イン・プログレス(進行しながら進歩する)授業である。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>① オリエンテーション 授業概要</p> <p>②事例紹介</p> <p>③～⑭以下同文</p> <p>⑮実習 (レポート作成)</p>				
<p>&lt;授業の進め方&gt;</p> <p>非常勤講師・ゲストスピーカー（実践者、事業家、医師、ジャーナリスト等）による講義、学生との討論</p>				
<p>&lt;講師紹介&gt;</p> <p>新潟県産業労働観光部 新産業企画監</p>				

12. オペレーションズリサーチ 【情報・技術分野 基礎科目】

担当教員	専任・非常勤	開講時期	曜日・時間	単位数・コマ数
羽田 隆男	専任	秋学期・前期	水曜・6限	1単位・7コマ
<p>&lt;授業の概要と目的&gt;</p> <p>経営システムに関する諸問題を発見し分析し解決するための数理的な理論・技術、およびそれらの活用方法について講述する。本講義の目的は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営システムに関する諸問題を数理的に定式化する方法を理解する。</li> <li>2. 定式化した問題を解くための基礎的な理論を理解する。</li> <li>3. 定式化した問題のソリューションを効率的に求めるための各種アルゴリズムを理解する。</li> <li>4. オペレーションズ・リサーチの応用事例を通してその有効性・実用性を理解する。</li> <li>5. 数理的な理論・技術を問題に即して応用できる統合力を養成する。</li> </ol>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① オペレーションズ・リサーチの概要: ORの歴史的背景、ORの手順、モデル化、ORの手法</li> <li>② 線形計画問題とその応用: 定式化、生産計画問題、輸送問題、割当問題</li> <li>③ 線形計画問題の解法: 幾何学的解法、シンプレックス法、線形計画法の演習</li> <li>④ ゲームの理論: ゲーム理論の基礎概念、純粋戦略、混合戦略、ゲーム理論の応用</li> <li>⑤ 意思決定法: 各種意思決定法、新聞売り子問題、意思決定法の演習</li> <li>⑥ ネットワーク計画法: グラフとネットワーク、経路問題、最小費用流、ネットワーク理論の応用</li> <li>⑦ 階層化意思決定法: AHPの概要、階層図、一対比較、ウエイトの決定、整合性の判定</li> </ol>				
<p>&lt;授業の進め方&gt;</p> <p>講義への積極的な参加を促すために、できるだけ双方向の講義を行う。また、理解を深めるために演習をできるだけ多く実施する。</p>				
<p>&lt;講師紹介&gt;</p> <p>武蔵工業大学工学部～早稲田大学大学院理工学研究科博士課程単位取得満期退学                  (株)ヤスイ産業～東海大学電子情報学部ならびに東海大学大学院工学研究科教授                  生産システム工学特論、経営工学研究ゼミナール他を担当。 日本経営システム学会理事、工学博士</p>				

20. 中小企業の海外戦略 【経営戦略・組織人事分野 発展科目】

担当教員	専任・非常勤	開講時期	曜日・時間	単位数・コマ数
駒田 和民 他	非常勤	秋学期・前期	金曜・6限	1単位・7コマ
<p>&lt;授業の概要と目的&gt;</p> <p>資源の乏しい日本は海外から資源を輸入し、付加価値の高い製品に加工し、世界に輸出して生業を立てていくことを今後も国家として追及していくことが求められている。しかし、昨今、少子高齢化の進展により、国内市場は縮小を余儀なくされ、海外依存度は益々高まっていく。中小企業といえども、今後海外市場進出を視野に入れた企業行動が否応なく求められるようになっていく。しかし、海外進出には、多くのチャンスがある一方、異文化や商習慣がことなり、リスクに満ち満ちている。本講座では、かつて海外市場の第一線で活躍した元企業戦士の講師達から、彼等が体験した汗と努力の結晶ともいべき数々の事例をベースに海外市場開拓に当たってどのような戦略をとるべきかを紹介し、皆さんと一緒に考えていきたい。授業の目標は、海外市場に進出する場合の踏まえるべき戦略の手順を一通り理解できるようにすることである。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 総論 講師：駒田和民</li> <li>② 海外進出のF Sから開業まで、事例紹介（東南アジア）講師：駒田和民</li> <li>③ 中国市場進出の諸問題をどう克服していくべきか（人事労務管理、知財など）講師：久佐賀義光</li> <li>④ 中国市場進出の諸問題をどう克服していくべきか（人事労務管理、知財など）講師：久佐賀義光</li> <li>⑤ マーケティング（東南アジア）講師：戸谷憲一</li> <li>⑥ 製造・技術面から見た海外進出の要諦（中国市場）講師：森本五百樹</li> <li>⑦ 海外進出のファイナンス（欧州他）講師：野村洋一郎</li> </ol>				
<p>&lt;授業の進め方&gt;</p>				
<p>&lt;講師紹介&gt;</p> <p>経営支援NPOクラブ 会員 日本エリクソン社 技術顧問 千葉工業大学 非常勤講師 JICA 専門家</p>				



## 23. 経営戦略特論Ⅰ 【経営戦略・組織人事分野 発展科目】

担当教員	専任・非常勤	開講時期	曜日・時間	単位数・コマ数
阿部 新生	非常勤	秋学期・前期	水曜・5限	1単位・7コマ
<p>＜授業の概要と目的＞</p> <p>事業に失敗はつきものである。現在優良会社と呼ばれている多くの会社は失敗に学び、致命的とならぬ前に問題を克服し、事業を継続してきたのみならずその失敗をむしろ活かし、成長の原動力としてきた。しかしながら多くの企業においては、失敗事例は早く忘れ去られるべきものとして葬られ、致命的となった場合を除き表に出ることはない。</p> <p>本講ではまず失敗の学び方を整理し、次いで失敗の戦略的考察を行い、さらには講師の経験に基づく事例をテーマに、何故失敗するのか、失敗を出来る限り避けるためには何をすべきなのか、何が出来るのか、事業を成功に導く法則といったものが現実的にあるのだろうか、といったことを一緒に考えていくことを主な内容とする。</p> <p>このように失敗の具体例につき、講師が経験した思考に即しながら議論を展開することにより、失敗を検討するプロセスを身に付け、最終的には事業推進の要点を学ぶことを本講義の目的としている。</p>				
<p>＜授業計画＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①失敗をなぜ学ぶのか、失敗をどう学ぶべきか。</li> <li>②何故失敗するのか、その戦略的考察。</li> <li>③具体的ケースを学ぶにあたっての事業環境にかかる知識の整理。</li> <li>④ケーススタディ(国内事業例)</li> <li>⑤ケーススタディ(海外事業例)</li> <li>⑥ケーススタディ(海外事業例)</li> <li>⑦失敗を学び今後の事業創生の糧とするためには何をすべきか。</li> </ol>				
<p>＜授業の進め方＞</p>				
<p>＜講師紹介＞</p> <p>セントラル硝子株式会社 顧問      昭和電線ホールディングス株式会社 監査役</p>				

## 29. 中小企業金融 【会計・財務分野 発展科目】

担当教員	専任・非常勤	開講時期	曜日・時間	単位数・コマ数
山田 俊郎	専任	秋学期・前期	月曜・5限	1単位・7コマ
<p>＜授業の概要と目的＞</p> <p>財務会計・管理会計とB/S・P/L・C/F3表分析の知識、および3表など経営数値のエクセルシミュレーションを活用しながら、中小企業特有の経営課題と財務・金融について、実践的知識の取得と提案力の醸成を目的とする。そのため、それら事例に触れる機会ももちたい。</p>				
<p>＜授業計画＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①B/S・P/L・C/F3表の関係、フリーキャッシュフロー、キャッシュフロー経営</li> <li>②フリーキャッシュフローと企業価値、投資リターン評価法、リスク分析</li> <li>③中小企業経営と財務の課題1</li> <li>④正味運転資本の改善、不要な投資・負債の処分</li> <li>⑤地域金融、資金調達交渉点</li> <li>⑥売掛債権流動化、固定資産流動化</li> <li>⑦株式や社債そのほかの資金調達、事業ポートフォリオ最適化</li> </ol>				
<p>＜授業の進め方＞</p> <p>講義が中心。理解しているかいないかの顔をみるため東京キャンパス受講生はぜひ前に座って表情を見せてほしい。講義中のエクセル画面は細かいのでなおさらです。</p> <p>また、お互いに限りある講義時間を効率よく使いたいので、SNSを多用して講義内容の資料添付や補足ないし訂正をする。受講生の質問やコメントなどの投稿も歓迎する。</p>				
<p>＜講師紹介＞</p> <p>同志社大学経済学部卒、藤森税務経理事務所～(学)新潟総合学院および国際総合学園にて理事、専門学校校長などの要職を歴任～(株)日本メンター代表取締役社長。</p> <p>教育事業で長年の経験を有し、学校法人の内部監査業務、起業家支援に従事、日本ベンチャー学会会員。</p> <p>公認内部監査人</p>				

## 30. 環境金融 【会計・財務分野 発展科目】

担当教員	専任・非常勤	開講時期	曜日・時間	単位数・コマ数
澤山 弘	非常勤	秋学期・前期	月曜・6限	1単位・7コマ
<p>&lt;授業の概要と目的&gt;</p> <p>「ポスト京都議定書」に向けた動きが活発化する中、環境金融が地球温暖化防止に果たすべき役割が俄かに重要性を帯びてきている。排出量取引市場が脚光を浴びがちであるが、環境金融が担うべき分野ははるかに広い。この授業では、地球温暖化防止に向けた内外の取組み状況に関するマクロ的な理解を得た後に、環境金融の理論と実際について、風力発電のプロジェクト・ファイナンスなどの事例に即して、知識を習得することを目的とする。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>①地球環境問題と京都メカニズム：地球温暖化の現状と見通し、JI、CDM  ②EU域内排出量取引制度：EU－ETS  ③諸外国の取組みの現状：「ポスト京都議定書」に向けたEU、米国、新興国の動き  ④わが国の取組みの現状：国内排出量取引の開始、国内クレジット、環境税  ⑤環境金融とは何か：金融機関の環境配慮行動、UNEP－FI、金利優遇の経済合理性  ⑥環境プロジェクト・ファイナンス：風力発電事業を事例として  ⑦環境配慮型融資の先進事例：環境格付融資、環境コベナンツ融資、エコアクション 21</p>				
<p>&lt;授業の進め方&gt;</p> <p>毎回、図表を中心とした資料を配布する</p>				
<p>&lt;講師紹介&gt;</p> <p>専修大学大学院経済研究所 客員教授</p>				

## 42. 福祉サービスビジネス 【事業環境分野 発展科目】

担当教員	専任・非常勤	開講時期	曜日・時間	単位数・コマ数
丸田 秋男	非常勤	秋学期・前期	木曜・6限	1単位・7コマ
<p>&lt;授業の概要と目的&gt;</p> <p>介護サービスなど福祉分野におけるサービスビジネスの可能性を検討するためには、法制度等に関する基礎的理解が必要である。</p> <p>この授業では、福祉サービスをめぐる社会経済情報を分析し、株式会社等による福祉ビジネス戦略の実例検証を通して事業創造あるいは雇用創立の方策等を具体的に検討できる力量形成を図ることを目的とする。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>①日本における福祉サービスの動向と法制度  ②福祉サービスをめぐる社会経済情勢の分析①  ③福祉サービスをめぐる社会経済情勢の分析②  ④福祉サービスとコミュニティビジネス  ⑤福祉ビジネス戦略の実例①  ⑥福祉ビジネス戦略の実例②  ⑦まとめ</p>				
<p>&lt;授業の進め方&gt;</p> <p>講義を60分行った後、その授業における討論のポイントについてディスカッションを行う。</p>				
<p>&lt;講師紹介&gt;</p> <p>新潟医療福祉大学社会福祉学部 社会福祉学科長 教授</p>				



## 43. スポーツビジネス 【事業環境分野 発展科目】

担当教員	専任・非常勤	開講時期	曜日・時間	単位数・コマ数
赤木 弘喜	専任	秋学期・前期	木曜・5限	1単位・7コマ
<p>&lt;授業の概要と目的&gt;</p> <p>現代社会において、スポーツはその存在と影響力の大きさを増している。スポーツの産業としての発展は、「グローバル化と地域密着」という、まさに日本経済の方向性と一致しているともいえる。本講義は、スポーツのグローバル化の流れを見極めながら、地域密着および地域に貢献できるスポーツビジネスの構築を目指す。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>①スポーツビジネスの可能性を探る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*グローバル化</li> <li>*地域密着</li> <li>*スポーツ政策</li> </ul> <p>②スポーツマーケティング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*スポーツプロダクト</li> <li>*スポーツ消費者</li> </ul> <p>③スポーツマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*スポーツとマネジメント</li> <li>*スポーツビジネスのマネジメント</li> </ul> <p>④スポーツで地域を創る &lt; NO SPORTS NO LIFE &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*スポーツの可能性</li> <li>*スポーツを活かす試み</li> </ul> <p>⑤ワークショップ①</p> <p>⑥ワークショップ②</p> <p>⑦まとめ・スポーツビジネスの立案（レポートまたはプレゼンテーション）</p>				
<p>&lt;授業の進め方&gt;</p> <p>配布資料に基づき講義を行う。意見交換やグループワークに積極的に参加してください。授業時間以外でのフィールドワークも考えています。</p>				
<p>&lt;講師紹介&gt;</p> <p>東京教育大学(現筑波大学)体育学部卒          東北学院大学教養部講師・助教授を経て東北学院大学教養学部助教授          日本体育学会会員、スポーツ産業学会会員、スポーツマネジメント学会会員、(財)日本プロスポーツ協会「キャリアサポートセンター」運営委員会委員長</p>				

## 16. 経済特論 【事業環境分野 基礎科目】

担当教員	専任・非常勤	開講時期	曜日・時間	単位数・コマ数
湯川 真人	専任	秋学期・後期	水曜・5限	1単位・7コマ
<p>&lt;授業の概要と目的&gt;</p> <p>(概要)</p> <p>近年、世界経済には大きな潮流の変化が見られる。それは、新興国経済の急速な発展と、曲がり角の直面している日・米・欧など経済先進国という構図であるが、それぞれが構造的問題を内包している。この構造的問題は、实体经济、金融資本市場という経済の場だけではなく、社会における格差や環境問題など広範囲に及び、それぞれが複雑に絡み合っている。今後のわが国経済、および企業社会の進む方向を考える時、こうした大きな潮流変化に対する十分な認識と、その意味するところを深く洞察することは不可欠である。</p> <p>本授業においては、まず現在の世界経済が内包する構造的問題のフレームワークを認識し、その中で日本の経済の位置づけを確認する。その枠組みの中で、日々現実に起きている経済事象がどのように関連付けられるのか、またそれらの事象は日本の経済や企業社会の将来を考察する上でどのような意味を持つのか、を考えていきたい。</p> <p>(目的)</p> <p>この授業の目的は、&lt;授業の進め方&gt;に示すような作業を通じて、今、世界経済、日本経済が直面している何十年に一度の構造変化の実態に院生が迫り、理解を深めることにあるが、と同時に、さまざまな経済事象や社会的事象に関する情報に対し、その意味するところを深く洞察するという、「情報に対する感性」を養ってもらうことも含まれている。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p>				
<p>&lt;授業の進め方&gt;</p> <p>受講者が確定した段階で院生をいくつかのグループに分ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 現在見られる経済事象や社会的事象をとりあげ(新聞・雑誌・論文その他)、グループによるディスカッションのテーマを与える。</li> <li>② 翌週それぞれのグループ内のディスカッションを通して前段で述べた諸点についての考えをまとめる。</li> <li>③ 各グループは翌週そのまとめを授業において発表し、私や他グループからの論評を仰ぐ。</li> </ol> <p>①→②→③→①→②…の繰り返しにより講義を展開する。</p>				
<p>&lt;講師紹介&gt;</p> <p>東京大学教養学部教養学科卒  (株)日本興業銀行入行後要職を歴任～J.P モルガン信託銀行(株)取締役～興銀第一ライフアセットマネジメント(株)常務取締役～シテイトラスト信託銀行(株)代表取締役社長～本大学院設立準備非常勤顧問  資産運用、投資運用に関する豊富な経験と実践的な知識を有する。</p>				

## 31. IT 基盤技術 【情報・技術分野 発展科目】

担当教員	専任・非常勤	開講時期	曜日・時間	単位数・コマ数
藤岡 宥三	専任	秋学期・後期	水曜・6限	1単位・7コマ
<p>＜授業の概要と目的＞</p> <p>IT基盤技術分野において、起業を目指す者や企業内でのIT基盤技術を活用する者の育成を目的として、ITインフラについて学ぶことを目的とする。</p> <p>さらに、IT 基盤技術の各種事業の実態や、それぞれの事業の特色と必要とされる技術、起業のポイントを学ぶことで、学生が目指す事業分野を明確にし、事業計画策定のための基礎知識の習得を目的とする。</p>				
<p>＜授業計画＞</p> <p>①IT基盤技術とは            ②IT基盤技術市場概況1            ③IT基盤技術市場概況2            ④IT基盤技術の現状-受注ソフトウェア開発            ⑤インターネット            ⑥インターネットとITビジネス            ⑦インターネットの今後</p>				
<p>＜授業の進め方＞</p> <p>毎回、講義とケースについての試験を行い、次週にケースについての討議・解説を行う。</p>				
<p>＜講師紹介＞</p> <p>慶應義塾大学工学部～米国カーネギーメロン大学経営工学大学院(現同大テッパースクールオブビジネス)修士課程修了            NRI アメリカ社長、NRI 香港会長、NRI シンガポール社長～(株)野村総合研究所常務取締役～NRI データサービス(株)専務取締役～NRI データアイテック(株)代表取締役社長            ～野村福祉共済会理事長 コンピュータ・システムの構築に関する豊富な実務経験を有する。</p>				

## 34. 中小企業のイノベーション 【アントレプレナーシップ分野 発展科目】

担当教員	専任・非常勤	開講時期	曜日・時間	単位数・コマ数
佐藤 一也	専任	秋学期・後期	木曜・5限	1単位・7コマ
<p>＜授業の概要と目的＞</p> <p>わが国の産業発展のうえで、中小企業の果たす役割が極めて大きいことは周知の事実である。一方経営面で、資金、開発力、販路、人材、後継者など種々の問題を抱えているところが多い。このなかで、製造業ではオリジナル製品の開発や製造技術の革新などによって下請型企業から脱皮する事例があり、非製造業では、流通やサービスの提供の方法を開発して新たな市場を開拓するケースが見られる。本講義では中小企業のイノベーションの取り組み方について、成功例・失敗例を交えながら学んでいく。</p>				
<p>＜授業計画＞</p> <p>①中小企業の現状把握:日本の中小企業の置かれている現状を各種統計などにより認識する。            ②品質についての考察(品質立国日本の課題):品質重視の経営とは何かを考え、体得する。            ③ものづくり理論:製品・サービスの提供のしくみを学ぶ。            ④下請型と自立型中小製造業の違い:製品開発による独自の販路開拓の困難に直面し、下請型に甘んじるケースの打開策            ⑤中小企業に対する支援策について:技術革新や各種連携など国や地方の支援策について解説する。            ⑥失敗例から学ぶ中小企業の経営術:あまり公表されていない失敗事例や近年の企業不祥事を反面教師として学ぶ。            ⑦成功例から学ぶ中小企業の経営術:優良企業の紹介事例は枚挙にいとまがないが、技術革新に焦点をあててその真髄を学ぶ。</p>				
<p>＜授業の進め方＞</p> <p>ビジュアルな資料に基き、紙の配布は僅少としてその場で理解してもらうよう努める。従って、出席しない人はDVDでカバーが必須。</p>				
<p>＜講師紹介＞</p> <p>東北大学工学部卒 (株)新潟鉄工所取締役、執行役員、新潟内燃機工場長などを歴任～財団法人日本海事協会ディーゼル機関の開発、製造、工場経営などに長年携わる。新潟大学人間教育科学部非常勤講師の経験。ISO9001、ISO14001審査員</p>				

35. ベンチャー企業の成長マネジメント 【アントレプレナーシップ分野 発展科目】

担当教員	専任・非常勤	開講時期	曜日・時間	単位数・コマ数
田中 延弘	専任	秋学期・後期	木曜・5限	1単位・7コマ
<p>&lt;授業の概要と目的&gt;</p> <p>草創期を生き抜いたベンチャー企業は、成長過程に入りいかなる経営課題に直面するのか、それら課題にいかに取り組み、解決するのかを学ぶ。これにより、ベンチャービジネス持続的発展のための条件、戦略、方策を考える。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>①総論(企業成長とリスクマネジメントについて講義する)</p> <p>②ケース分析1</p> <p>③ケース分析2</p> <p>④ケース分析3</p> <p>⑤ケース分析4</p> <p>⑥提案書グループ作業(ベンチャー企業を選び、課題解決のための提案書を作成する)</p> <p>⑦全体討議(上記ベンチャー企業の経営者を呼び、提案書検討会を行なう)</p>				
<p>&lt;授業の進め方&gt;</p> <p>上記の通り。</p>				
<p>&lt;講師紹介&gt;</p> <p>一橋大学商学部～英国スターリング大学大学院経営学研究科修士課程修了 (株)住友信託銀行～漢友投資顧問有限公司にて国際金融、ベンチャービジネスへの投資・支援などに携わる。</p>				

37. 地域経済活性化論 【事業環境分野 発展科目】

担当教員	専任・非常勤	開講時期	曜日・時間	単位数・コマ数
塩谷 壽雄	非常勤	秋学期・後期	月曜・5限	1単位・7コマ
<p>&lt;授業の概要と目的&gt;</p> <p>地方が衰退する中、地域の活性化が叫ばれている。市町村合併や地方分権、道州制導入など地方再生への動きもあるが、長引く不況下、東京への一極集中が進み、地方の疲弊は一層顕著になっている。これまで各地で活性化のため、様々な取り組みが行われてきた。それらの事例を分析し、活性化の可能性を議論しながら、実践するための方策を探る。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>①地方の現状、活性化の意味</p> <p>②地域通貨による活性化</p> <p>③自然を生かした活性化</p> <p>④スポーツによる活性化</p> <p>⑤経営の活性化(企業、NPO、行政、議会)</p> <p>⑥地域イベントによる活性化</p> <p>⑦県内の事例</p>				
<p>&lt;授業の進め方&gt;</p> <p>講義の後、成功要因、改善点などについて議論する。</p>				
<p>&lt;講師紹介&gt;</p> <p>医療法人徳真会グループ人事顧問 新潟医療福祉大学 非常勤講師      敬和学園大学 非常勤講師</p>				

#### 40. アグリビジネス 【事業環境分野 発展科目】

担当教員	専任・非常勤	開講時期	曜日・時間	単位数・コマ数
川辺 紘一	専任	秋学期・後期	水曜・5限	1単位・7コマ
<p>&lt;授業の概要と目的&gt;</p> <p>食と農をめぐる世界および国内の環境変化が激化しつつある中で、地域における農業・食料・食品産業(アグリビジネス)の分野における新たな起業・事業創造をいかにして実現してゆくのか、そのための多角的な視点と、実践的かつ戦略的な方法論を明らかにする。とりわけ、地域における食と農の多面的な価値を活かした複合的な事業創造アプローチ(農商工連携/6次産業化)が有効であるとの観点から、「地域複合アグリビジネス」の全体スキームとアック地域における具体的実践事例のケーススタディを通してアグリビジネス事業創造の知識を得る。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>①いま、食と農の世界に何が起きているのか？                  ②農業の基本的価値とアグリビジネスのミッション                  ③アグリビジネスの基本構図                  ④地域複合アグリビジネスの全体スキーム                  ⑤地域複合アグリビジネスのケーススタディ①                  ⑥地域複合アグリビジネスのケーススタディ②                  ⑦アグリビジネス事業創造の戦略的視点と方法</p>				
<p>&lt;授業の進め方&gt;</p> <p>オリジナル資料による講義を60分行った後、院生と教員の間での質疑応答および出席者全員の参加によるディスカッションを行う。</p>				
<p>&lt;講師紹介&gt;</p> <p>早稲田大学第一政治経済学部卒 (株)博報堂などを経て、(株)農都共生総合研究所の設立に参画、代表取締役専任に就任。ふるさと回帰総合政策研究所・研究パートナー。                  地方自治体や地域企業等の要請を受けて、各地の農業・農村振興、アグリビジネス立ち上げ支援等を行っている。</p>				

#### 41. ツーリズム・マネジメント 【事業環境分野 発展科目】

担当教員	専任・非常勤	開講時期	曜日・時間	単位数・コマ数
高井 典子	非常勤	秋学期・後期	木曜・6限	1単位・7コマ
<p>&lt;授業の概要と目的&gt;</p> <p>本科目ではツーリズムを「地域を舞台とする交流産業」としてとらえ、「地域づくり」の仕組みとしての「着地型ツーリズム」に焦点を当てる。従来のツーリズムビジネスの主流である発地型ツーリズムが都会の旅行会社主導の送客型ビジネスであるのに対し、着地型ツーリズムは地域住民が主体となって観光資源を発掘、商品化、発信を行う集客型の事業展開を目指すものであり、地域づくりの一手法として近年注目を集める一方で、そのビジネスモデルはまだ完全に確立されたものではなく、実践では様々な課題に直面している。講義ではまず交流産業としてのツーリズムの諸特徴と課題を整理し、そのうえで日本各地の事例に基づき、着地型ツーリズムの考え方と実践手法を検討し議論する。受講者は本科目を履修し、必要な学習課題に取り組むことにより、次のような目標を達成することが期待される。① 旅行経験を商品とするサービス・ビジネスとしてのツーリズムの特徴と課題を理解する。② 経済・社会・文化現象としてのツーリズムが地域社会に及ぼす影響について理解し、その負のインパクトを最小化しながら正のインパクトを最大化するための条件を考えることができる。③ Stakeholders(旅行者、ツーリズムビジネス当事者、自治体、地域住民)がwin-win-winとなる持続的なツーリズムを実現するための条件を考えることができる。④ 地域住民主導の地域づくりとしての着地型ツーリズムの実践過程における課題を認識し、解決のためのアプローチを考えることができる。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>①発地型ツーリズムと着地型ツーリズム                  ②地域の観光資源の発掘と商品化                  ③着地型ツーリズムの事業主体と流通・販売・マーケティング                  ④住民の役割                  ⑤ケース分析Ⅰ ニューツーリズム開発型事例                  ⑥ケース分析Ⅱ 観光地再生型事例                  ⑦まとめ</p>				
<p>&lt;授業の進め方&gt;</p>				
<p>&lt;講師紹介&gt;</p> <p>高崎経済大学 地域政策学部非常勤講師</p>				



## 44. 環境ビジネス 【事業環境分野 発展科目】

担当教員	専任・非常勤	開講時期	曜日・時間	単位数・コマ数
澤山 弘	非常勤	秋学期・後期	月曜・6限	1単位・7コマ
<p>&lt;授業の概要と目的&gt;</p> <p>地球温暖化対策は、解決が求められる喫緊の課題であると同時に、実に多様なビジネスチャンスを提供している。環境ビジネスの領域は幅広く、先端的な技術開発が求められている分野もあるが、生活に密着した分野での起業機会も少なくない。この授業では、それぞれの分野について、技術的な動向や市場環境などについて概説を行うとともに、これまでの企業実査も踏まえて、実際に取り組んでいる企業・事業体の事例を具体的に紹介し、当分野に限らず起業に当たっての事業ニーズの発見と事業化プロセスに関する知見を習得することを目的とする。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>①自然エネルギー : 太陽光発電と太陽熱利用、エコ住宅、ヒートポンプ、小型水力発電、雪氷冷熱、地中熱利用</p> <p>②省エネ、エネルギー貯蔵 : E S C O事業、燃料電池、電気自動車</p> <p>③木質バイオマスエネルギー : 木質専焼発電、ガス化発電、木質ペレットボイラ・ストーブ</p> <p>④食糧需給問題とバイオ燃料 : バイオエタノール、バイオディーゼル</p> <p>⑤畜産廃棄物、下水汚泥、食品廃棄物の利活用 : メタン発酵発電・熱利用、堆肥化、液状飼料化</p> <p>⑥循環型社会形成とリサイクル : プラスチック容器・貴金属等の回収、リユース、リサイクルショップ</p> <p>⑦環境保全、環境配慮型商品、食の安全 : エコツーリズム、汚染浄化、屋上・壁面緑化、雨水利用、有機農業</p>				
<p>&lt;授業の進め方&gt;</p> <p>毎回、図表を中心とした資料を配布する。対象によっては、現場のスライド写真、企業パンフレット、製品実物なども紹介する。</p>				
<p>&lt;講師紹介&gt;</p> <p>専修大学大学院経済研究所 客員教授、</p>				



## 6. データ解析 【マーケティング分野 基礎科目】

担当教員	専任・非常勤	開講時期	曜日・時間	単位数・コマ数
馬場 康維	非常勤	秋学期・集中	土曜・集中※	1単位・7コマ
<p>&lt;授業の概要と目的&gt;</p> <p>起業、事業の展開、維持、発展という様々な場面で、データを活用した客観的でクールな推論、判断が必要である。この授業では、データに基づく推論、意思決定に必要なデータ解析の手法を学習し、ビジネスモデルの構築にデータの活用ができる力を養うことを目的とする。</p> <p>授業は、実際のデータの読み解きの能力を身に付けることを主眼とし、そのために、統計各手法を用いたデータの記述、それに基づく推論、意思決定の方法等について解説する。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>① データ解析に必要な統計学の基礎知識: エクセルによるデータの整理、グラフ化/顧客数の算出における統計データの利用法/インターネットによる情報収集</p> <p>② 分布の推測と分布の比較: 平均値、標準偏差から分かること</p> <p>③ 二つの変数間の関係の分析: 相関と回帰 総合演習(1) 起業を想定したテーマの検討とグループの形成</p> <p>④ 多数の変数の分析法: 需要予測、顧客の分析、企業診断などに用いられる手法の解説 評価のための総量の構成(主成分分析)/多変量による予測(重回帰モデル)/多変量による判別(判別分析) 総合演習(2) 起業を想定したテーマの検討</p> <p>⑤ 質的データの分析: 調査データの分析、開発製品の評価、クライアントの分析などに用いられる手法の解説 数量化法/因子分析 総合演習(3) 起業を想定したテーマの検討</p> <p>⑥ 総合演習(4)</p> <p>⑦ 確率モデルの応用: リスク分析などに応用できる方法の解説と演習 ロジスティック回帰分析/自己回帰モデル 総合演習(5)</p>				
<p>&lt;授業の進め方&gt;</p> <p>講義の後演習を行う。3週目から始まる総合演習では、起業を想定したテーマを作りグループ討論を行う。</p>				
<p>&lt;講師紹介&gt;</p> <p>情報・システム研究機構 新領域融合研究センター 特任教授、 情報・システム研究機構 統計数理研究所 特任教授 多摩大学 客員教授</p>				

※この授業は、10月17日(土)、24日(土)、31日(土)、11月7日(土)、21日(土)に行う予定です。

## 15. ベンチャーファイナンス 【アントレプレナーシップ分野 基礎科目】

担当教員	専任・非常勤	開講時期	曜日・時間	単位数・コマ数
吉村 貞彦	非常勤	秋学期・集中	土曜・集中※	1単位・7コマ
<p>&lt;授業の概要と目的&gt;</p> <p>ベンチャー企業は、成長するにしがって資金調達・優秀な人材確保等のために株式市場に新規上場していく。わが国には、企業の成長段階等に応えるために各種の上場市場がある。</p> <p>本講義では、わが国における各種の証券市場の概要と各市場における新規上場企業の事例分析、さらに企業成長のさらなる手段としての合併、事業統合、M&amp;A、内部統制構築等の理解を深めることにより、将来の CEO・CFO として必要な知識の習得をめざしていく。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション:全体の構成・授業の進め方</li> <li>② ベンチャー企業のための株式公開制度と資本政策</li> <li>③ 株式上場市場の概要</li> <li>④ 新興市場上場と事例分析(その1)</li> <li>⑤ 新興市場上場と事例分析(その2)</li> <li>⑥ 会社合併、M&amp;A の実務等</li> <li>⑦ 小テスト</li> </ol>				
<p>&lt;授業の進め方&gt;</p> <p>講義と、事例分析への参加によるディスカッション形式で進める。</p>				
<p>&lt;講師紹介&gt;</p> <p>公認会計士</p>				

※この講義は11月28日(土)、12月5日(土)に行う予定です。